創刊号

1996年1月25日発行

ちいろばの家だより

社会福祉法人至愛協会
ちいろばの家

〒206多摩市関戸6-8-1
☎0423(72)3015

わたしたち「ちいろばの家」では、より多くの市民の皆さまに、わたしたちの目指しているもの、日常の働き、そこで働く仲間たちの様子などを知ってもらい、あわせて、皆さまからもいろいろなお声を寄せていただこうと、「ちいろばの家だより」を発行することになりました。

皆さまに喜んでいただけるような楽しい企画で発行し続けてまいりたいと思っておりますので、どうぞ末長くご愛読ください。

ちいろばの家って何をしているところなの

ちいろばの家とリサイクル

「ちいろば」の意味をご存じでしょうか。「ちいさいろばの子」を略した造語です。わたしたちはお互いの重荷やハンディを担いあって生きていきたいと、働きもののろばの子にその願いをこめて、「ちいろばの家」と命名しました。

リサイクルショップ「ちいろばの家」は市民のみなさまからご寄付いただいた家具、日曜雑貨、衣類などの品物を、ハンディをもつ仲間たちとともに整理し、修理をして、販売しています。

自分にとって不用になったものでも、限りある資源として大切にし、みんなで分け合い、使い合う、リサイクルの“こころ”は、ハンディをもつ仲間たちとともに働き、暮らしあっていく街をつくっていくための大切なもとになるものだと思います。

わたしたちは、より多くの仲間たちが参加できる“働く場”を作りだしていくために、このリサイクルの輪を、さらに拡げていきたいと願っています。

リサイクル情報ボード

ちいろばの家でリサイクルしていない品物を、出したい人、欲しい人、有料で譲りたい人は、ちいろばの「リサイクル情報ボード」をご利用ください。希望する人を紹介いたします。

この「リサイクル情報ボード」は店内に掲示されています。多摩市の「たま広報」にも毎月掲載されています。

オリジナル・リサイクル玩具

ちいろばの家では、市民のみなさまからご寄付いただいた中古家具を再利用してドールハウス（人形の家）を製作・販売しています。

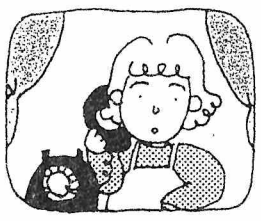
大工の親方の田中三郎さんを中心にひとつひとつていねいに作られた、手のぬくもりあふれるオリジナル玩具を、どうぞご利用ください。

こんな品物も扱っています

リサイクル・ペーパー

ちいろばのメインテーマであるリサイクルの一環で、再生紙を利用したポケット・ティッシュ、ボックス・ティッシュトイレット・ペーパーを扱っています。

もちろん店頭で販売しますが、ある程度の量になりますと多摩市内に限り、配達もしていますので、詳しくはちいろばにお問い合わせください。



リサイクル品を出したいとき

電話でご連絡ください。多摩市内に限り、こちらから取りに伺います。なお、予約がたくさん入っているときは、1～2週間ほどお待ちいただくこともありますのでご了承ください。

回収できないものも一部ありますので必ず電話でご確認ください。

ヨーグルト

昨年11月から取扱いを始めた新企画の商品です。八王子市の磯沼牧場からの提供で、「世界で一番小さなヨーグルト工房の新鮮なジャージーミルクで作ったヨーグルト」というキャッチフレーズをもっています。

牧場自家製ならではのヨーグルトづくりは、小牛を育てるところから始まります。だいじに育てたジャージー牛が出すしぼりたてのミルクを、ヨーグルトにつくりあげました。ミルクの風味を生かす乳酸菌を選んで使い、酸味をおさえて、誰にも食べやすいおいしいヨーグルトをつくりました。

低農薬野菜

『低農薬・新鮮な・安い』という3拍子そろった野菜です。知る人ぞ知る神奈川県川崎市黒川の青年農園家・市川衛さんが月・木・土の週3回、朝収穫したての旬の野菜や果物を昼すぎに納品してくれています。

ちいろばファンの中には、この野菜をお目当てにこられる方も多くいます。これからもお客さまのニーズにお答えしながら、おいしい野菜を提供します。

それに科学肥料や農薬を極力使わず、残菜に米ぬかを加えて発酵させた“EM農法”を取り入れているので、地球にやさしい野菜づくりです。

働く仲間（その1）

三橋　準　さん（32才）

現在、ちいろばの家で働く仲間は全員で20名ほどになります。各号で１人づつ紹介していきたいと思います。

まず、その第１号としては、ちいろばの家の看板息子（娘？）で有名な『三橋　準』さんをここに紹介いたします。

いつもほがらかにお客さまと対応し、誰が付けたか“スマイル準”という異名を持っているくらいです。

特技は“ビラ配り”。ビラを配っていて断られればすぐあきらめるのが一般的ですが、彼はあきらめずに何度もビラを渡します。ちいろばのＰＲに大いに貢献してくれています。

さあ、最後に１つ紹介しておきたいこと、それは、自分の好みの女性が視界に入るとサーと寄っていき、腕や手を触ります。決していやらしくないので、触られた方も安心しているようです。このことは、周囲の男性陣からうらやましがられ、「俺が同じことやったらヘタすりゃ訴えられちゃうよナァ」と言わしめています。

この“好みの女性”という尺度が何なのか、若くてきれいなだけではないようで私の思うに、“心の暖かさのある女性”がその対象のようです。

ですから、準さんに手をにぎられたら、貴女は光栄に思ってください。「貴女は心の暖かい人ですね」と言われているようなものですから。

そんな彼が明日もきっと、皆さまに笑いいかけて、ちいろばのご来店を心よりお迎えしてくれるはずです。よろしくお願いいたします！

ちいろばの家コラム

お正月に思うこと

『お正月』、子どもが大好きな言葉でした。「お年玉」「お雑煮」「おせち料理」「獅子舞」「羽根つき」「凧上げ」「カルタ」「双六」「福笑い」「百人一首」…、どれを取っても魅力的なものでした。

ここで、あえて“でした”という過去形にしたかと言うと、はたして、今の子ども達は昔のようにお正月を、指折り数えて心待ちしているのだろうか、と疑問に思えてならないからです。

子どもを取りまく環境が、昔と今では様変わりし、遊ぶ道具も溢れるばかりに買い与えられています。30年ほど前に少年時代を過ごした１人としては、少し淋しい気がしてきます。

“待つ”ということは、“我慢”していなければならず、たとえば、野球のグローブが欲しいとなると何ヵ月も待って、誕生日にやっと親が買ってくれる。という実に我慢の末に手に入れる“宝物”として大切に扱い、しばらくは枕元に置いて寝ていた記憶があります。

さて、親が買ってくれるもう１つの時期が、この『お正月』でした。お正月に遊ぶゲームだったり、下着や服もお正月の元旦に新調してもらい、あまりの嬉しさから全身に“鳥肌”が立つのです。人によって差はあると思いますが、私は嬉しいとゾクゾクして今でも鳥肌が立つ時があります。

物事が順調に進んでいくのにこしたことはないのですが、アクシデントなどで思うように事が運ばず、やっと目的が達成できたときの感動。それに近い感じの思いがあります。

少年よ大志を抱け

なかなか経済的な事情から物が手に入らなかった昔。でも“心の豊かさ”は間違いなく昔のほうがあった、と断言できます。

“待つ”“我慢する”“もったいない”今となっては「死語」に近い言葉になりかねません。ちょっと直せば使えるものを、簡単に捨てず、“もったいないと思う心”を大切にすること。ちいろばの家が今まで歩んできた“リサイクル”は、遠い少年時代の夢に似ていませんか。

さあ、少年たちよ、夢と希望を果てしなく大きくもって、明るい未来に向かってはばたいてほしい。物を大切にいつくしんでほしい。そんな少年たちの成長をそっと陰から応援したいと思ってます。　（新牧）

編集後記

創刊ということで、どのような内容にしたらいいのか。また、あんな記事も載せたい、こんなニュースも載せたい、と試行錯誤の末、スタッフの協力を得て、どうにか第１号を発行することができました。

次回発行は３月を予定しています。できる限り、隔月発行を目指しますので、どしどしご意見、ご希望をお寄せください。

【ちいろば編集室】

ホットニュース

昨年12月から待望の新トラック（２トンアルミバンタイプ）が走り出しました。このトラックは東京馬主協会より寄贈いただいたもので、運送作業の効率をかなりアップすることができます。

今まで１トン車の通常タイプでしたので回収した家具などを１日に何度か倉庫に戻ってきて降ろしていました。また、転倒防止のロープ掛けもその都度行なっていました。雨天などの日は回収できず、日延べをしていました。

それらのことを苦慮していましたが、今回の新トラックの導入でかなり回収件数を増やすことができるようになりました。お陰さまで、数週間お待ちいただいていたのが、短い期間待ちでお伺いできるはずです。

お客さまの中には、すでに新トラックの雄姿を見られた方もいらっしゃると思いますが、もし、街角で見かけることがありましたら、手でも振ってください。気がつけば会釈程度はお返しできると思います。

このトラックの運転責任者は平松光次さん、助手に高本孝之さん、佐藤喜之さんが乗っています。いずれ詳しく“働く仲間コーナー”でご紹介しますが、ちいろばの家ともども、よろしくお願いいたします。

花の22才トリオ（写真左から
高本さん、佐藤さん、平松さん）